クリック!RKK

RKKイメージキャラクター あるぼ

デジタルRKKは、3ch!

年末年始の情報も
楽しく元気にお伝えします!!

夕方いちばん

月～金曜
夕方4時45分

司会:木村 和也(月～金)
長船 なお美(月～水)
野溝 美子(木・金)

キャスター(左から): 佐々木慎介　岡村清香　宮脇利充

夕方いちばん NEWS

月～金曜
夕方6時16分

年末のニュースも
私たちがお伝えします!

RKK
熊本放送
URL: rkk.jp
i-mode・Yahoo!ケータイ・EZwebからも可

第48回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第24回

平成18年12月24日(日)午後6時15分
熊本県立劇場コンサートホール
主催／熊本県民第九の会・熊本県文化協会
助成／(財)熊本県立劇場
後援／NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM791

熊本県知事

潮　谷　義　子

第24回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

ベートーヴェンの最後の交響曲「第九」は、第１次世界大戦中の1918年に日本で初演され、その後、１年を締めくくるステージとして全国各地で演奏されるようになり、現在に至っています。近年は合唱団員を広く募集して行う参加型の演奏会も増えていますが、昭和57年以来続いている熊本県民第九の会の演奏会はその先駆けとして知られ、永年にわたり県民の文化活動の活性化に御貢献をいただいております。皆様の御尽力に対し、深く敬意を表します。

今年は、若き気鋭の指揮者山田和樹先生と、ソリストに本県出身の西森由美先生をはじめ第一線で御活躍の方々をお迎えし、300名の県民の皆様からなる合唱団、そして熊本交響楽団とともに、歳末の熊本に歓喜の調べを響かせてくださいます。芸術文化は私たちの精神を支え、生きる希望をもたらす大切なものです。本日お集まりの皆様には、文化の力で「元気で明るい熊本づくり」が推進され、地域社会がより豊かで活力に満ちたものとなりますよう、今後ともお力添えをお願い申し上げます。

最後に、本日の演奏会の御盛会と皆様方のますますの御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

熊本県立劇場館長

葉　山　完　治

第24回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催おめでとうございます。

ベートーヴェン「第九」は、熊本県立劇場の落成を祝って誕生した、県民の皆様の手づくり音楽会ですが、県立劇場といたしましてもこの24年間一緒に歩ませていただきましたことをとても貴重で幸せなことと思っています。

この音楽会には、熊本交響楽団と県民第九の会合唱団、独唱者や裏で支えるスタッフの皆様を合わせると、400名もの方々が関っています。

毎年、集う人は代わっていきますが、今年は山田和樹さんの指揮のもと「たがいに手を取り合おう、億万の人々よ！」という歓喜の歌の歌詞そのままに、歌声は昔からの繋がりと新しい出会いを紡ぎ乍ら、心を一つにして響き合います。そして、オーケストラと見事に融合し感動を呼び起こすことと思います。歓喜の調べには、ともすれば希薄になりがちな私達の絆を、又、忘れがちな人間の温もりを思い出させる大きな力があります。

とりわけ今年はクリスマス・イブのコンサートです。きっと私たち一人ひとりがお互いの絆を確かめ合うにふさわしい日になることでしょう。本日のコンサートのご成功と、皆様方の今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

熊本県文化協会会長

小　堀　富　夫

熊本年末恒例の「県民第九の会」の演奏会も、今年で24回となりました。熊本県立劇場の落成を記念して始まったこの演奏会は、県民手づくりの演奏会として「実行委員会」がつくられ多くの苦労を乗り越え今日に至っています。「実行委員会」の関係者の方々をはじめご支援を頂きました皆様に深い敬意を表します。

演奏は当初から熊本交響楽団が担当していますが、合唱は一般から公募した熊本県民第九の会合唱団が担当されています。

300名近い合唱団の方々は、年々少しずつ入れ替わっていかれますので、今回までおよそ2,500名の方々が県立劇場で声高らかに「歓喜の歌」を歌っておられるわけです。

熊響も合唱団の方にも第１回からの参加の方もいらっしゃるし、20回以上参加の方もおられ、親子で出演という方も増えて参りました。

また、毎回熱心に演奏を聞いて頂いた方も、延べ何万人にも達します。この方々のお陰で今回まで来たわけで感謝を申し上げます。

今年は指揮者の山田和樹さんを迎え、ソリストの西森由美（ソプラノ）・岩森美里（アルト）・井上了吏（テノール）・小川裕二（バリトン）が出演されます。

今年も素晴らしい演奏会になる事を楽しみにしています。そして、出演者、観衆の方々、関係の皆様方にお礼を申し上げます。

熊本県民第九の会実行委員長代行

草　刈　秀　克

ご来場の皆様年末のお忙しい中お越し下さいまして誠に有難うございます。お陰様で24回目の演奏会を迎えました。これも一重にご来場戴く皆様方とご支援戴きます全ての皆様のお力添えの賜物と深くお礼申し上げます。

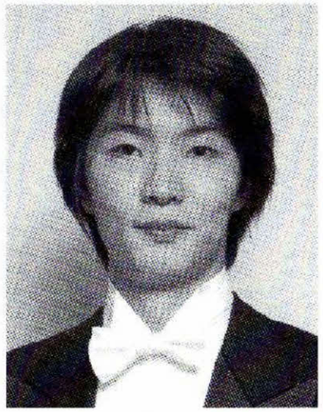
今年６月『バルトの楽園』と云う映画が全国の東映系で上映されました。ご覧になった方も大勢いらっしゃると思いますが簡単に内容を紹介しますとこの映画は1914年第１次世界大戦が勃発し日本軍はドイツの極東における拠点地だった中国（青島）に約３万人の大軍を送り込み攻略した。この戦いによって敗れたドイツ兵4,700人は捕虜として日本に送られ 全国12ヶ所に作られた俘虜収容所に振り分けられたその一つに徳島県鳴門の板東俘虜収容所があった。この収容所は他の収容所と違い所長松江豊寿が自由と平等の精神で捕虜達に接し地元民との融和も図った、その所長や地元民に対する感謝の気持がドイツ兵による日本最初の第九演奏となるのです。この魂を揺さぶる第九の調べが10月から12月にかけ全国で100回以上演奏されます。私共の第九も皆様の魂を揺さぶり明日への活力になれば幸いです。又ここ数年音楽文化の裾野を広げ情操教育の一助になればと中学生対象に公開リハーサルを行っております。本日は本当に有難うございました。どうぞ良い年をお迎え下さい。

出　演
PERFORMANCE

指　揮		山田和樹
独　唱	ソプラノ	西森由美
	アルト	岩森美里
	テノール	井上了史
	バリトン	小川裕二
合　唱	熊本県民第九の会合唱団	
	合唱指揮	松岡　聡
		工藤勇壹
		平和孝嗣
	ピアノ	古閑恵美
		林原ゆり
		川辺里美
		真田眞澄
管弦楽	熊本交響楽団	

平成17年12月25日(日)　《第23回熊本県民第九の会演奏会(指揮＝田代詞生)》から

指揮者のプロフィール
CONDUCTOR ; PROFILE



指揮　山田和樹（やまだ かずき・Kazuki YAMADA）

1979年、神奈川県秦野市生まれ。

幼少の頃より木下式音感教育を受ける。神奈川県立希望ヶ丘高校吹奏楽部にて学生指揮者を務める。

2001年3月、東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。安宅賞受賞。指揮法を小林研一郎、松尾葉子の両氏に師事。

2002年7月には、ザルツブルグ・モーツァルテウム・サマーアカデミーに参加、ゲルハルト・マルクソン氏に指導を受ける。

これまでに、オーケストラでは、ブルガリアVARNAフィル、名古屋フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、瀬戸フィルハーモニー交響楽団(ミュージックアドヴァイザー)、東京交響楽団メンバーによる室内合奏団をはじめ、横浜市立大学管弦楽団(ミュージックアドヴァイザー)、千葉県少年少女オーケストラなど全国約50団体以上のアマチュアオーケストラの指揮指導にも力を注いでいる。

大学在学中に芸大生有志オーケストラ「TOMATOフィルハーモニー管弦楽団」(2005年11月、横浜シンフォニエッタに改称)を結成し、音楽監督に就任。卒業後も年2回の神奈川県立音楽堂での定例演奏会を中心に活動を続けている。

レパートリーは弱冠22歳にしてベートーヴェン交響曲全曲演奏を達成した他、シューマン、ブラームス、ボロディン、ビゼー、フランクの交響曲全曲演奏も達成しており、幅広いレパートリーを持つ。

また、若手作曲家とのコラボレーション、リハーサル付きの演奏会や若手音楽家コンチェルトデビューコンサートなど自らプロデュースするコンサートも数多く、精力的に活動している。

合唱の分野では、2005年4月、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスに就任、2006年2月には委嘱作品初演を含む同団第203回定期演奏会への登壇も果たし、「音楽の友」「音楽現代」両誌などで絶賛された。

武蔵野合唱団(指揮者)をはじめ、これまでに早稲田大学グリークラブ、稲門グリークラブ、東京六大学混声合唱連盟などの指揮指導にも当たっている。

「ロマン派作品が得意なようで、スケールの大きな、今時珍しいほどのロマンティックな音楽をつくる。明晰で表現意欲も旺盛(音楽現代誌)」と評された。

2006年は、4月に岩城宏之氏の代役としてオーケストラ・アンサンブル金沢(第5回北陸新人登竜門コンサート〈弦楽器部門〉)を指揮、タマーシュ・ヴァルガ氏(ウィーンフィルチェロ奏者)との共演、5月に、名古屋フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、7月に瀬戸フィルハーモニー交響楽団定期演奏会、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢を指揮した。

今後、10月にセントラル愛知交響楽団、2007年2月に東京混声合唱団定期演奏会での指揮が予定されている。

2006年4月より、くらしき作陽大学非常勤講師を務める。

2006年6月より、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージック・アドヴァイザーに就任。

(2006年8月現在)

西森由美（にしもり　ゆみ）

ソプラノ

熊本県水俣市出身。東京芸術大学卒業。二期会オペラスタジオ第28期修了、最優秀賞受賞。文化庁オペラ研修所第5期修了。

これまでに「フィガロの結婚」伯爵夫人、「魔笛」パミーナ、「コシ・ファン・トゥッテ」ヒィオルディリージ、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「オテロ」（ロッシーニ作曲）デズデモナ、「サロメ」サロメ、「ペレアスとメリザンド」メリザンド、「カルメン」ミカエラ等、ドイツ、イタリア、フランスの多くのオペラに出演。それらを透明感のある美声で表現し、多彩な役柄を演じ分け絶賛を博した。

オペレッタの分野では「春のパレード」マリカ、「ルクセンブルク伯爵」アンジェール・ディディエ役で出演。瑞々しい感受性と美しい日本語で観客を魅了した。

また一昨年より、児童合唱及び合唱曲の作曲や、合唱指揮者として世界的に活躍しているヴィトゥータス・ミシュキニスの率いる合唱団“アジュアリュカス”（リトアニア共和国）と各地で共演、新境地を開いた。

その他のコンサートでは、ヴェートーヴェン「第九交響曲」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」、モーツァルト「レクイエム」「大ミサ曲ハ短調」「ミサ・ブレヴィス」、マーラー「交響曲第四番」（熊本交響楽団と共演）ブラームス「ドイツレクイエム」他、数多くのミサ曲オラトリオのソリストとしても活躍している。

2004年秋、ドイツに於ける“山本純ノ介個展演奏会”に同行。ベルリン、ワイマール、バトランゲンザルツァ、インゴルシュタットの各地でベルリンフィルハーモニーのメンバーと共演し、好評を博した。

二期会会員。

岩森美里（いわもり　みさと）

アルト

国立音楽大学、同大学院修了。

二期会オペラスタジオ第27期修了。

文化庁オペラ研修所第5期生修了。

文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーンへ留学。

二期会オペラスタジオ修了公演でカルメンを演じ、特別賞受賞。

“フィガロの結婚”のケルビーノ、マルチェリーナ、“蝶々夫人”のスズキ、“ワルキューレ”のヴァルトラウテ、ロスヴァイセ、“神々の黄昏”の第2のノルン、“ラインの黄金”のフリッカ、“カヴァレリア・ルスティカーナ”のサントゥッツァ、“リゴレット”のマッダレーナ、“修道女アンジェリカ”の公爵夫人、“ジャンニ・スキッキ”のツィータ、“ピーター・グライムス”のセドレー夫人、“アイーダ”のアムネリス、“ドン・カルロ”のエボリ公女、etc。

又、二期会40周年記念原語初上演でカルメンを演じた。

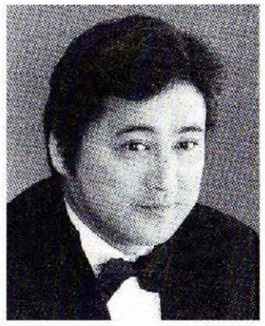
新国立劇場では、“仮面舞踏会”のウルリカ、“魔笛”の第3侍女、“ワルキューレ”のロスヴァイセに出演。

ベートーヴェンの第九、ミサ・ソレムニス、ヴェルディのレクイエム、モーツァルトのレクイエム、ロッシィーニのスターバト・マーテル、メンデルスゾーンのエリヤ、ヘンデルのメサイヤ、バッハのh-mollミサetcにも出演。

二期会、日本演奏連盟、東京室内歌劇場会員、東京芸術大学大学院オペラ科非常勤講師、国立音楽大学助教授。

井ノ上了史（いのうえ　りょうじ）

テノール



国立音楽大学声楽科卒業。

東京文化会館推薦オーディション合格。

日伊コンコルソ入賞。

イタリア声楽コンコルソ金賞、2年連続でテノール大賞受賞。

日本声楽コンクール入選、東京国際コンクール入賞及び海外留学助成金を受ける。

91年よりイタリアへ留学、アリーゴ＝ポーラ、ジャチント＝ブランデッリ、ジュディッタ＝パリス、エウジェニオ＝フルロッティの各氏の元で研鑽を積む傍らイタリア各地でコンサートにも多数出演、パドヴァ国際コンクール、パヴィア国際コンクール等に入賞。

95年に帰国後は二期会公演「ドン、ジョヴァンニ」のドン、オッターヴィオ「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド「真夏の夜の夢」のライサンダー「ファルスタッフ」のフェントン、二期会創立50周年記念公演「こうもり」のアルフレードなどテノールの重要な役柄で常に活躍好評を博す。2003年9月には「蝶々夫人」のピンカートン役にて主役としての存在感ある美声と演技で聴衆を魅了した。

新国立劇場主催オペラ鑑賞教室で「トスカ」のカヴァラドッシ、新国立劇場公演「サロメ」、「アラベラ」、「忠臣蔵」に出演、2004年には「俊寛」、「サロメ」、「マクベス」に出演し好評を博す。

その他の公演では「椿姫」のアルフレード、「カルメン」のドン・ホセ、「カヴァレリア＝ルスティカーナ」のトゥリッドゥなどの数々の役柄で常に活躍。

コンサートではベートーヴェン「第九」をはじめ国内の主要オーケストラと数々の共演にて活躍、又2002年、2003年はウィーン学友協会ホールにての第九にもテノールソリストとして出演、2001年にはベルティーニ指揮の都響公演ヴェルディ「レクイエム」に出演し好評を得る他ガラコンサート等にも多数出演。その他NHK「FMリサイタル」、テレビ朝日「題名のない音楽界21」等マスメディアにも度々登場しており伸びのあるリリックな美声と舞台栄えのする容姿で今後益々の活躍が期待されている。

2005年は6月の二期会公演「椿姫」のアルフレードをはじめ、NHKFM「名曲コンサート」、オリンピックコンサート2005、京都コンサートホールにてヴェルディ「レクイエム」、10月琵琶湖ホールオペラ「スティッフェリオ」等数々の公演で活躍。2006年3月イタリアのボローニャ市サン・ロッコにてコンサートに出演し絶賛を博す。

東京音楽大学客員助教授、平成音楽大学客員助教授、国立音楽大学非常勤講師、二期会オペラスタジオ講師、二期会会員、日本演奏連盟会員。

小川裕二（おがわ　ゆうじ）

バリトン

北海道小樽市出身。

東京芸術大学声楽科、同大学院オペラ科修了。

第22回日伊声楽コンコルソ第2位受賞。第55回日本音楽コンクール入選。

芸大オペラ《ラ・ボエーム》のマルチェロ役でオペラデビュー後、《道化師》《椿姫》《メリー・ウィドウ》《リゴレット》《カルメン》等、数多くのオペラに出演し研鑽を積んだ。‘98年二期会公演《フィガロの結婚》のアルマヴィーヴァ伯爵役でたっぷりとした美声と豊かな表現力で大好評を博し、この役を当たり役とした。その後新国立劇場・二期会共催公演《ヘンデルとグレーテル》のペーター役、新国立劇場公演《こうもり》のフランク役、新国立劇場・二期会共催《リゴレット》のモンテローネ役等に出演。2001年二期会創立50周年記念公演《ファルスタッフ》のフォード役は大好評を博し、NHKを通じて全国に放送された。以後《忠臣蔵》、《ばらの騎士》、《エジプトのヘレナ》、《ジャンニスキッキ》、《トスカ》等々、コミカルな役には芸達者ぶりを発揮し、また重厚な役には温かみのある声で奥行きを広げるなど幅広い役柄に活動の場を広げている。

コンサート歌手としても活躍しており、《第九》を始め、《メサイア》、モーツァルやフォーレ、ヴェルディの《レクイエム》等々のソリストとしても活躍している。

現在、国学院大学栃木短期大学教授。二期会オペラストゥーディオ講師。

東京二期会会員。

1．歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b

ベートーヴェン

2．交響曲第９番 二短調 作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

第1楽章　Allegro ma non troppo, un poco maestoso

第2楽章　Molto vivace

第3楽章　Adagio molto e cantabile

第4楽章　FINALE

皆さんいっしょに第九を歌いましょう

私共熊本県民第九の会は、県立劇場開館の柿落しの事業として「ベートーヴェンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者・ソリスト、約100名のオーケストラ、300名の合唱団、この大編成のステージに立って同好の仲間・オーケストラ総勢400名と歌う感動・感激は体験したものしか分かりません。

聴いても感動するベートーヴェンの第九ですが、皆様方も県民第九の合唱団に参加して、この感動を体験してみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年６月上旬からはじまり、７月末日が締め切りとなっています。「合唱団員募集要項（申込書）」は６月上旬から県立劇場・女性センター・西野楽器店その他県内の主要文化施設におきますのでご利用ください。

練習期間は８月中旬に結団式を行い、９月から12月まで月３回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後に合計13～14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。

皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧　問　下田宰城
本山　洋
林原隆治

委員長　草刈秀士

委　員　奥羽秀一
神田一伸
草刈秀克
坂口幸男
田北洋康
黒葛原　潔
藤本幸弘
松岡　聡
山崎崇伸
吉田雄二
平和孝嗣

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳＝大宮　真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱
おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱
歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱
大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかった者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱
すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルピムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱
歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

合　唱
たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1．歌劇「フィデリオ」序曲　作品72b
ベートーヴェン

歌劇「フィデリオ」は、ベートーヴェン（Ludwig van Beethoven 1770～1827）の完成した唯一の歌劇である。この作品は、歌劇史上最も充実したものであるというだけではなく、遠くワーグナーの楽劇にいたるまで19世紀の音楽史全体に及ぼした影響は深く大きいものがある。物語の大筋は、スペインの貴族フロレスタンは国立監獄の獄長ピッツァロの私怨によって地下牢に投獄されている。夫の大事を知った妻レオノーレは男装してフィデリオの名で牢番の下僕の雇われ夫を救出するというものである。

「フィデリオ」は、単なる筋書きを越えて「人間解放」という高い理念を具現するものであり、ベートーヴェンの理想主義芸術を担う最も重要な柱のひとつとなった。その意味で歌劇のレパートリーとして現在も中心的な位置をしめる「フィデリオ」は、ベートーヴェンの精神がきわめて明瞭に刻まれた、彼自身の生きた記録としても重要である。とくに勇敢で愛情深いレオノーレの姿は、ベートーヴェンの理想の女性像を典型的にあらわしたものと言えよう。

ベートーヴェンは、この歌劇を再演するたびに改訂を加え、その結果序曲を「レオノーレ」序曲第１番から第３番とこの「フィデリオ」序曲と合わせて４曲も書くこととなった。

この「フィデリオ」序曲は、歌劇の素材は一切用いられず、この作品の劇的な雰囲気を伝える前奏曲的な性格をもつものである。全体は自由で明快な形式をとり、劇的な勝利の歌ともいえる律動的な動機とアダージョの静かな部分とが交互する序奏部と冒頭の動機からなる第一主題とホルンと弦からなる第二主題をもつ主部、そして圧倒的な終結部をもっている。

「第九」の初演でアルトを歌ったカロリーネ・ウンガー

2．交響曲第９番二短調作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大なる精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月７日夜、ウィーンのケルントナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空５度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モティーフが生起する。このモティーフが圧縮され、第１主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しようぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第２主題は第１主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第１主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第１主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第２主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕FINALE

第１呈示部＝まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティフでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティフによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第２呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストーソとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」合唱団
インスペクター　松岡　聡・神田一伸　CHORUS

Soprano
〈ソプラノ〉

古城　久美子
鈴木　倫世
田中　耐子
松村　紀子
友永　信子
平岡　寿子
八代　絹子
安田　志津子
伊藤　千恵子
岩木　恵子
片岡　仁美
黒木　紀子
隈部　文
永松　信子
橋本　千佳代
小野　順子
黒瀬　美由紀
中村　えみ子
春田　香子
山崎　はるみ
村上　実枝子
吉武　信子
㉔相川　久仁子
池田　三千代
㉑稲岡　福子
岩崎　里美
上村　貴世
⑪大溝　逸子
⑪岡沢　康子
梶原　紀久子
⑭川田　幸子
⑫川部　恵子
吉良　久子
工藤　たみ子
小島　淑子
㉒佐藤　淑子
沢田　和代
⑫島野　苓子
⑪杉本　由美子
武田　尚子
高森　さつき
⑪田上　みゆき
⑫谷口　登紀子
近田　綾子
津留　恭子
⑫寺澤　孝子
中村　久代
畠山　志津子
⑪服部　敬子
服部　メイ子
㉒長谷川　茉る子
東　恵子
藤田　悦子
㉑前田　弥生
⑩松川　千晶
⑬松門寺　阿古
宮本　はつみ
宮本　奈都美
山本　美穂子
矢住　ハツノ
⑲横田　味詠子
吉富　ちとせ
塩永　すみこ
濱田　洋子

Alto
〈アルト〉

石橋　美恵子
北野　美栄
熊木　京子
潮崎　チエ子
中川　さよ
平田　桃子
松原　優子
藤川　美幸
本庄　花織
山部　由美
吉村　美保子
佐藤　美由紀
塩満　朋子
芝原　登美
中熊　順
平野　洋子
広重　邦子
村上　早智子
村上　美千代
明石　瑠璃子
井野　亮子
今井　尭子
沖米田　恵子
菊池　恵美子
後藤　哲子
後藤　佳子
齋藤　寿子
重永　幸子
白石　奈央
田北　真理
田上　冷子
中垣　紀実恵
西村　侑里子
平野　玲子
船越　絹代
前田　喜久代
松永　ぎん子
益田　裕子
益田　嘉子
水野　和子
宮田　裕子
柳田　恵子
愛甲　訓子
安部　桂子
岩坂　美紀子
伊藤　律子
栗崎　峯子
上野　亮子
緒方　満喜子
㉑大久保　庸子
大堂　喜三子
⑩大塚　喜久子
⑬大塚　幸子
岡　追子
⑯小田原　純子
㉓小山　チエ
小山　智子
⑪加茂　千枝子
⑫川崎　節子
川上　喜久子
菊池　吟子
⑳木原　美智代
⑫北原　雅子
清川　光乃
㉑清原　幸子
吉良　圭子
㉔草刈　登喜代
⑲久保　久美子
倉岡　睦
⑬古賀　紀久子
⑱坂本　峯子
重村　節子
⑬柴田　道子
㉔杉本　弘子
⑮高比良　栄子
田川　珠恵
㉔武田　綾子
⑬竹下　敬子
田中　千勇子
⑳玉井　了子
田村　直子
⑱塚本　和子
辻　幸子
⑪中野　俊子
中山　弘子
長橋　葵
野中　久子
⑭濱田　敏子
㉒馬場　美也子
東　真理子
樋口　弓子
⑭平井　実子
⑮平嶋　かずこ
廣田　節子
⑭福嶌　邦子
藤田　美代子
⑯藤原　美智子
古田　美枝
星崎　文代
益田　留美
⑫正木　恒子
松尾　留美子
⑰松村　恵美子
⑰松本　美知代
⑫峯田　道子
宮辺　浩子
宮本　裕子
村上　博子
⑪森　敬子
⑯森　幸子
森　扶美代
毛利　トシエ
⑮山内　洋子
山下　富江
⑳安田　昭子
⑫山本　淳子

※10回以上の参加者を紹介します。(氏名の前の○印の数字が出演回数です)

Tenor
〈テノール〉

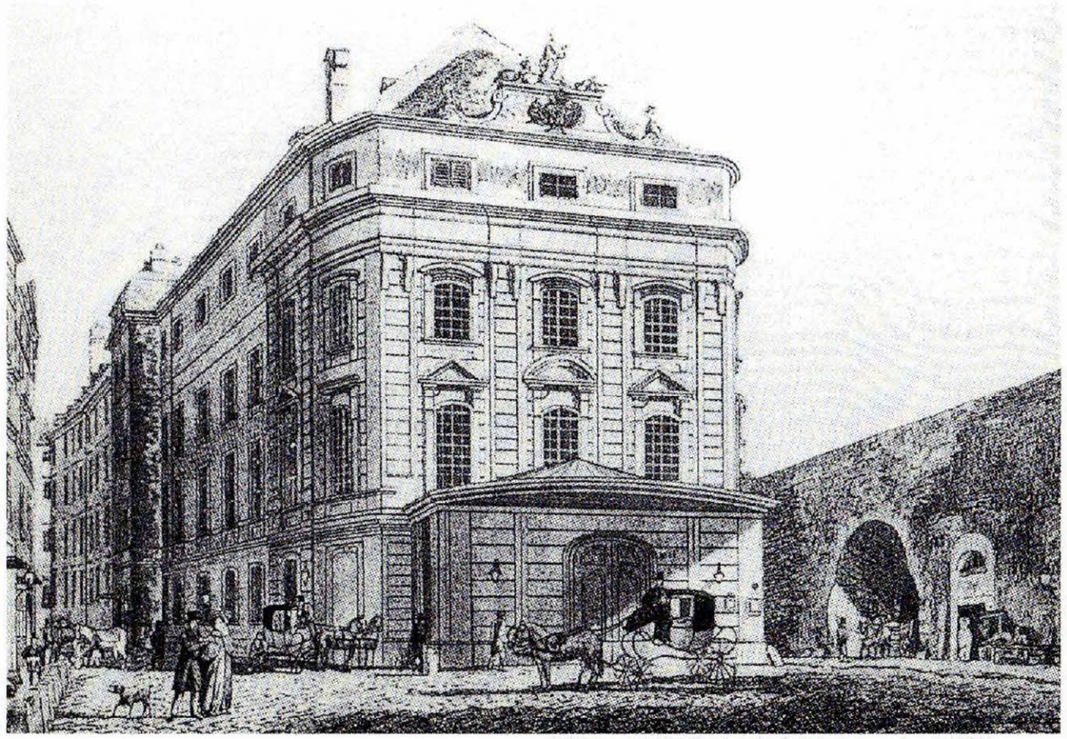
愛垣　辰雄
奥村　敏之
塩永　一寛
田尻　重信
森　三千雄
村上　忠郎
牛島　昭
笹田　亮
原村　憲司
日吉　勇弼
⑭岩崎　正博
井芹　良昭
上村　哲也
植村　芳樹
⑪江島　正彬
園城　陽二
木梨　興春
⑳小塚　基夫
⑫坂口　幸男
⑭潮崎　真一
関　栄
⑫髙倉　正純
柘植　治人
⑪西垣　洋
西口　明弘
㉒間　賢一
⑫藤嶋　浩三
㉔松尾　眞
⑬宮本　亨
⑪矢上　一英
⑭山田　弘二
吉田　幹男

Bass
〈バス〉

山下　隆生
山部　謙一郎
吉野　誠一
熊木　明廣
高木　幹史
中田　淳司
橋本　宏志
春木　悟
三浦　秀登士
安藤　敬久
泉　博
木庭　正士
小森田　浩
中原　護人
宮本　紀一郎
⑬青柳　正晴
㉔神田　一伸
河野　清治
菊川　英臣
⑬菊池　建朗
菊池　忠孝
窪田　隆穂
⑫幸田　祐一
後藤　雅章
永田　進
⑲西本　一成
野中　誠二
福池　淳一郎
⑪福池　裕
⑱前川　賢夫
⑮松本　津紀雄
⑬宮井　昭
⑭米村　甲矢夫

［特別団員］

木村　征雄
薮田　貴士
丸山　徹



「第九」の初演が行われたケルントナートーア劇場

〈コンサートマスター〉　鶴　和美

〈1stヴァイオリン〉
置田　しおり
鬼塚　雅子
佐藤　弘美
汐月　哲夫
黒葛原　契子
黒葛原　康子
鶴　和美
鳥居　俊彦
長坂　浩子
中山　文
原　雅子
山口　みゆき

〈2ndヴァイオリン〉
荒瀬　麻里
岡　純子
置田　みどり
香山　しげみ
佐々木　信恵
新川　友香子
田上　るみ子
東　眞知子
本山　洋
柚原　三弥子

〈ヴィオラ〉
安部　和歌葉
池辺　京子
緒方　肇
桂　敦子
清元　晃
甲田　啓子
辰野　陽子
黒葛原　潔
山崎　崇伸
吉田　美智子
鷲山　肇
鷲山　法雲

〈チェロ〉
置田　めぐみ
槌田　博文
長尾　和治
長坂　輝喜
野島　秀司
佛淵　かつよ
佛淵　信夫
福永　憲包
本田　義信
松永　尚子

第1回　昭和57年12月28日（火）
指揮／山田　一雄　　独唱／新　圭子　木村　宏子　伊豆野　修　高橋　修一
※越天楽（雅楽）……近衛秀麿（編曲）

第2回　昭和58年12月11日（日）
指揮／大友　直人　　独唱／高見久美子　岡　ますみ　大野　光彦　柴田　啓介
※楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲……ワーグナー

第3回　昭和59年12月27日（木）
指揮／山岡　重信　　独唱／中沢　桂　木村　宏子　板橋　勝　池田　直樹
※弦楽のためのアダージョ　作品11……バーバー

第4回　昭和60年12月25日（木）
指揮／フランティシェック・ワイナール　独唱／三縄みどり　妻鳥　純子　伊達　英二　中村　邦男
※序曲「レオノーレ」第3番　ハ長調　作品72a……ベートーヴェン

第5回　昭和61年12月27日（火）
指揮／荒谷　俊治　　独唱／津下美奈子　木村　宏子　鈴木　寛一　芳野　康夫
※トッカータとフーガ　二短調……バッハ～ストコフスキー

第6回　昭和62年12月26日（土）
指揮／安永武一郎　　独唱／中沢　桂　木村　宏子　近藤　伸政　栗林　義信
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第7回　昭和63年12月25日（日）
指揮／安永武一郎　　独唱／三縄みどり　木村　宏子　鈴木　寛一　平野　忠彦
※序曲「コリオラン」ハ短調　作品62……ベートーヴェン

第8回　平成元年12月24日（日）
指揮／小松　一彦　　独唱／秋山恵美子　木村　宏子　成田　勝美　高橋　啓三
※「プロメテウスの創造物」序曲　作品43……ベートーヴェン

第9回　平成2年12月23日（日）
指揮／籾山　和明　　独唱／山田　綾子　木村　宏子　大野　徹也　福島　明也
※「ロザムンデ」序曲　作品26……シューベルト

第10回　平成3年12月23日（日）
指揮／安永武一郎　　独唱／西森　由美　木村　宏子　田中　誠　宮原　昭吾
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第11回　平成5年12月23日（木）
指揮／荒谷　俊治　　独唱／河添　富士子　春日　成子　小林　彰英　栗林　義信
※楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲……ワーグナー

第12回　平成6年12月24日（日）
指揮／金　洪才　　独唱／岩永　圭子　妻鳥　純子　饗場　知昭　勝部　太
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

熊本交響楽団
KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

〈コントラバス〉
桑原　寿哉
古泉　俊彦
国米　稔
後藤　誠司
斎藤　一誠
坂田　英津子
白木　信一郎
田上　博子

〈フルート〉
大橋　みのり
椎葉　暁子
高浜　龍一郎

〈オーボエ〉
片岡　久哉
辰野　裕昭
平尾　豊

〈クラリネット〉
黒木　健次
畑中　亮二
原　敏郎
前野　美代子

〈ファゴット〉
小田　穂積
高木　群之
田村　聡司
宮瀬　真由美

〈ホルン〉
奥羽　秀一
奥羽　朋子
坂口　学
田中　禎子
野村　梢

〈トランペット〉
市原　彰
豊田　恭司
堀江　幸司

〈トロンボーン〉
佐藤　奈々絵
堀田　愛子
前田　紘孝

〈パーカッション〉
大迫　貴子
金坂　義徳
白尾　友宏
福島　好
山中　美雪

熊本県民第九の会 演奏記録
※は同時演奏曲

第13回　平成7年12月24日（日）
指揮／金　洪才　　独唱／西森　由美　妻鳥　純子　大島　博　大島　幾雄
※　モテット "アヴェ・ヴェルム・コルプス" k.618……モーツァルト

第14回　平成8年12月23日（月）
指揮／本名　徹二　　独唱／河添富士子　妻鳥　純子　大間知　覚　瀬戸口　浩
※カンタータ第147番よりコラール"主世、人の望みの喜びよ"BWV147…J.S.バッハ

第15回　平成9年12月21日（日）
指揮／金　洪才　　独唱／志岐由理子　妻鳥　純子　牧川　修一　小川　裕二
※序曲「コリオラン」ハ短調　作品62……ベートーヴェン

第16回　平成10年12月20日（日）
指揮／井崎　正浩　　独唱／佐々木典子　岩森　美里　井ノ上了吏　瀬戸口　浩
※序曲「レオノーレ」第3番　ハ長調　作品72a……ベートーヴェン

第17回　平成11年12月19日（日）
指揮／レオ・クレーマー　独唱／水野　貴子　青山智英子　持木　弘　松本　進
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第18回　平成12年12月23日（土）
指揮／金　洪才　　独唱／河添富士子　妻鳥　純子　大間知　覚　大島　幾雄
※歌劇「フィデリオ」序曲　作品72b……ベートーヴェン

第19回　平成13年12月23日（日）
指揮／田代　詞生　　独唱／佐々木典子　青山智英子　井ノ上了吏　松本　進
※歌劇「魔弾の射手」序曲……ウェーバー

第20回　平成14年12月22日（日）
指揮／松尾　葉子　　独唱／三縄みどり　杉野　麻美　米澤　傑　瀬戸口　浩

第21回　平成15年12月21日（日）
指揮／井崎　正浩　　独唱／佐々木典子　大林　智子　米澤　傑　松本　進
※喜歌劇「こうもり」序曲……J.シュトラウス

第22回　平成16年12月26日（日）
指揮／大山平一郎　　独唱／安藤赴美子　一色　礼子　五十嵐　修　木村　俊光
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第23回　平成17年12月25日（日）
指揮／田代　詞生　　独唱／三縄みどり　妻鳥　純子　大間知　覚　佐久間　伸一
※序曲「コリオラン」　ハ短調　作品62……ベートーヴェン

「歓喜の歌」の大合唱が響いた「第九」演奏会＝24日夜、県立劇場（小野宏明）

聖なる夜 熱唱響く

県劇「第九」演奏会

ベートーベン「第九」の演奏会が二十四日、熊本市大江の県立劇場であり、県内の合唱愛好者らによる「歓喜の歌」が聖なる夜に響き渡った。県民第九の会（草刈秀克実行委員長）、県文化協会主催。二十四回目の開催で、同劇場の年末の〝風物詩〟になっている。

県内の高校生から八十一歳まで約二百五十人が参加。クライマックスの第四楽章では、熊本交響楽団約百人の壮大なオーケストラをバックに、シラーの詩「歓喜に寄す」の一節をドイツ語で力強く歌い上げ、会場からは盛大な拍手が送られた。

指揮は、横浜シンフォニエッタ音楽監督の山田和樹さん。声楽家で水俣市出身の西森由美さん（ソプラノ）や小川裕二さん（バリトン）ら二期会会員の四人がソリストを務めた。

演奏会は一九八二（昭和五十七）年、同劇場の開館を記念しスタート。その後、県内の愛好家らが実行委を引き継いで続けてきた。毎回団員を募集。今年も八月から公演に向け練習に取り組んできた。

（内田裕之）